

# 2025年3月期 第2四半期 (中間期) 決算説明資料

2025年3月期第2四半期(中間期)  
決算説明動画は  
当社YouTubeチャンネルに掲載しております。

動画URL <https://youtu.be/3n5ix3s8C8g>

1. 2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算報告
2. 2025年3月期 通期見通し
3. トピックス



日本プラスト株式会社

1. 2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算報告

2. 2025年3月期 通期見通し

3. トピックス



日本プラスト株式会社

# (1) 概要



(単位：百万円)

	2024年3月期 第2四半期（中間期）		2025年3月期 第2四半期（中間期）		対前年同期比	
					増減	伸率
売上高	58,208	100.0%	60,319	100.0%	2,110	3.6 %
売上原価	52,309	89.9%	54,265	90.0%	1,956	3.7 %
売上総利益	5,899	10.1%	6,053	10.0%	154	2.6 %
販売費及び一般管理費	4,174	7.2%	4,528	7.5%	354	8.5 %
営業利益	1,724	3.0%	1,524	2.5%	△ 200	△ 11.6 %
経常利益	2,110	3.6%	1,306	2.2%	△ 804	△ 38.1 %
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,829	3.1%	800	1.3%	△ 1,029	△ 56.2 %
1株当たり中間純利益	95.64円		42.28円		—	—
1株当たり配当金	7.50円		7.50円		—	—
設備投資額	1,487		1,676		189	12.7%
減価償却費	2,802		2,500		△ 301	△ 10.8%
US \$ 換算レート	注1)	136.53円	注2)	154.08円	17.55円	—

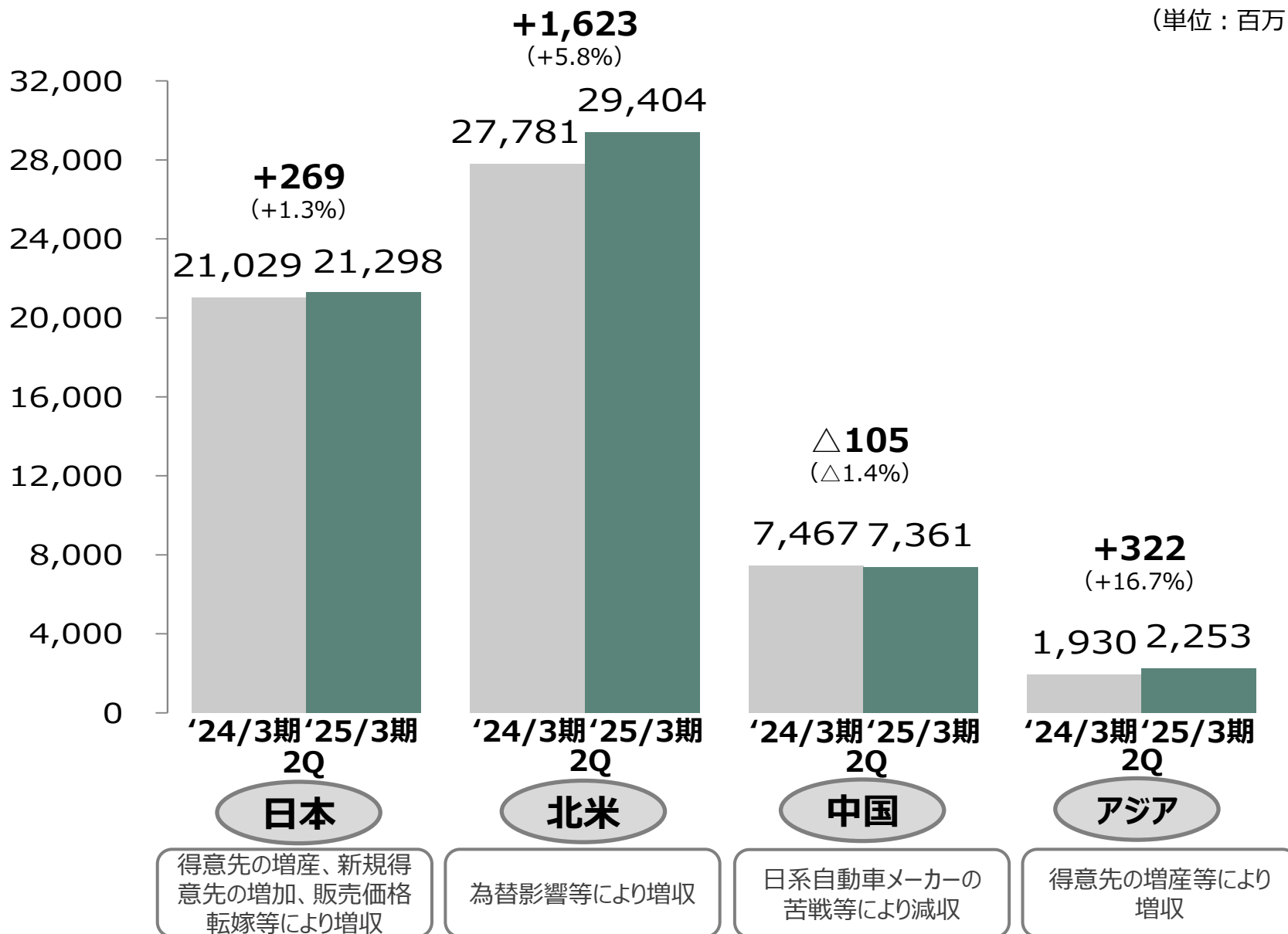
注1) 23年1~6月平均レート

注2) 24年1~6月平均レート

# (2) セグメント情報 <地域別売上>



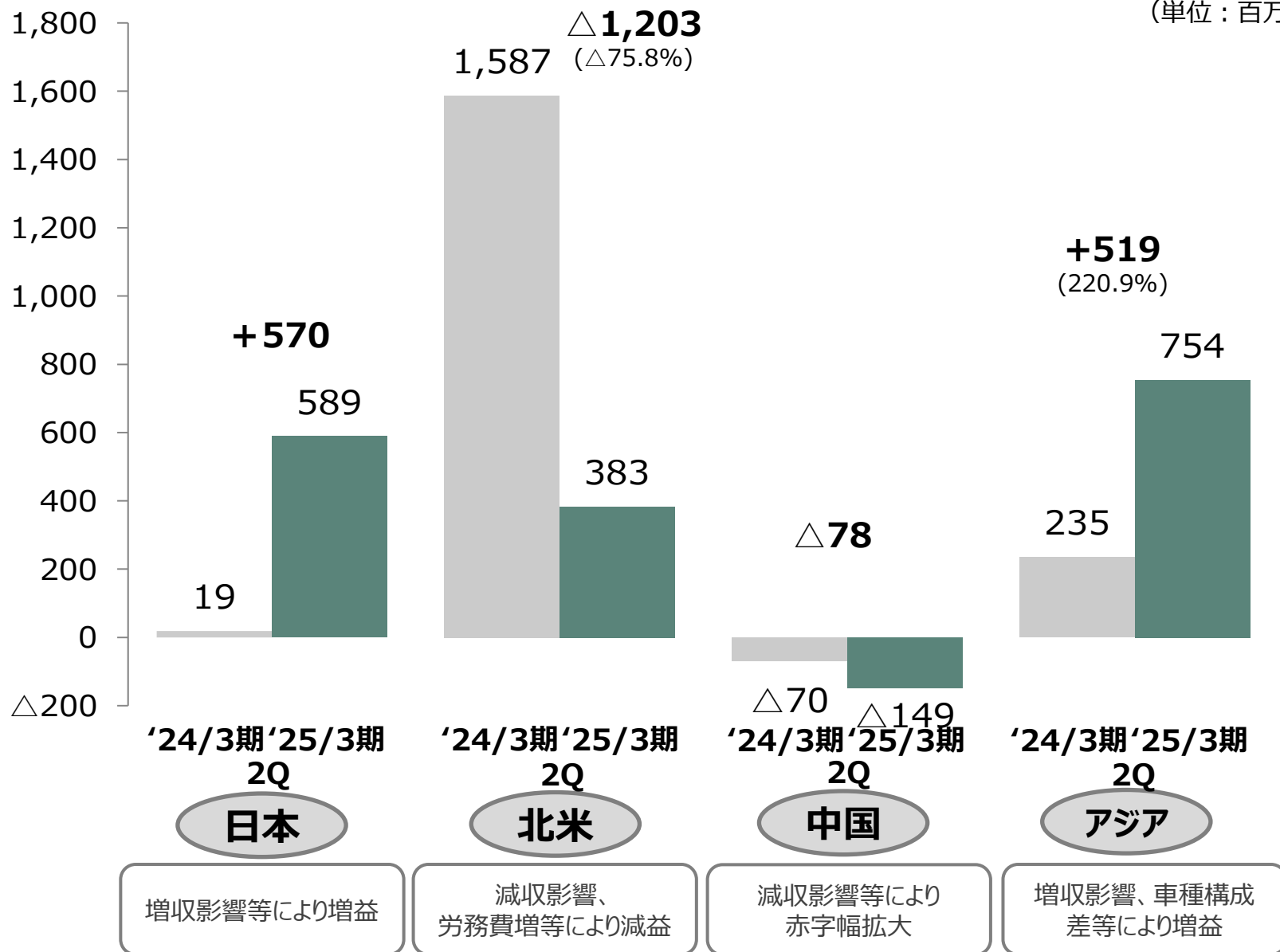
(単位：百万円)



# (2) セグメント情報 <地域別営業利益>



(単位：百万円)

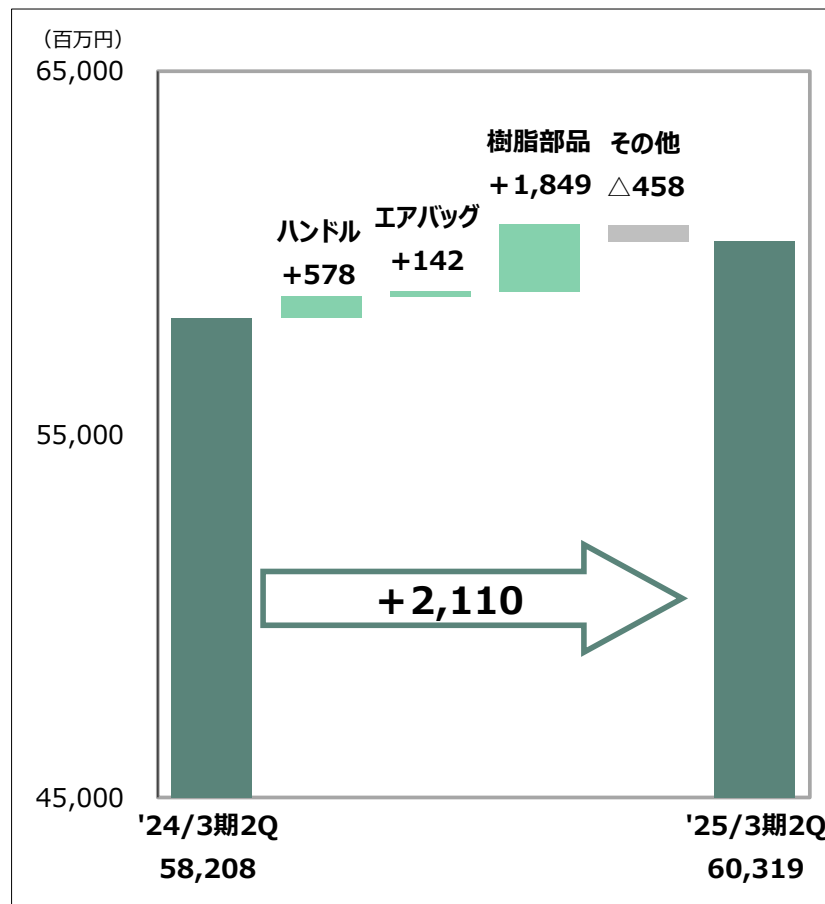


# (3) 製品別売上



(単位：百万円)

	'24/3期 2Q	'25/3期 2Q	対前年同期比	
			増減	伸率
			ハンドル	15,169 (26.1%)
エアバッグ	15,001 (25.8%)	15,143 (25.1%)	142	0.9%
樹脂部品	27,568 (47.4%)	29,417 (48.8%)	1,849	6.7%
その他	469 (0.8%)	11 (0.0%)	△458	△97.6%
連結売上高	58,208	60,319	2,110	3.6%



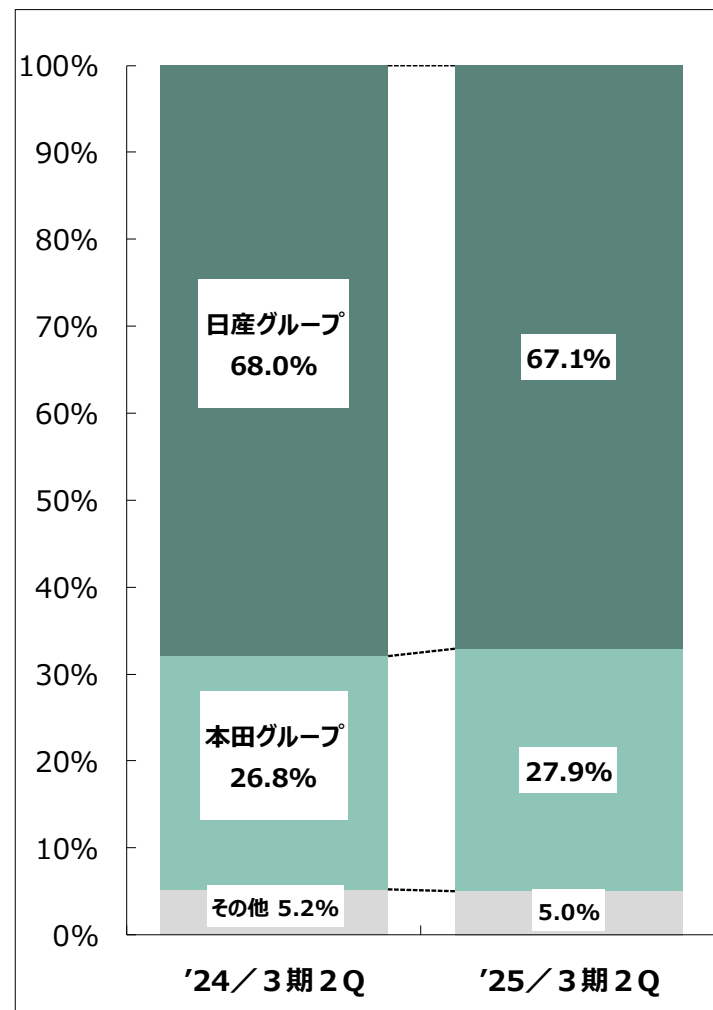
為替影響等によりハンドル・エアバッグ・樹脂部品は増加  
 自転車用エアバッグ販売先の倒産によりその他は減少

# (4) 得意先別売上



(単位：百万円)

	'24/3期 2Q	'25/3期 2Q	対前年同期比	
			増減	伸率
日産グループ	39,560 ( 68.0 %)	40,480 ( 67.1 %)	920	2.3 %
本田グループ	15,619 ( 26.8 %)	16,839 ( 27.9 %)	1,220	7.8 %
その他	3,028 ( 5.2 %)	2,999 ( 5.0 %)	△ 29	△1.0%
連結売上高	58,208	60,319	2,110	3.6 %



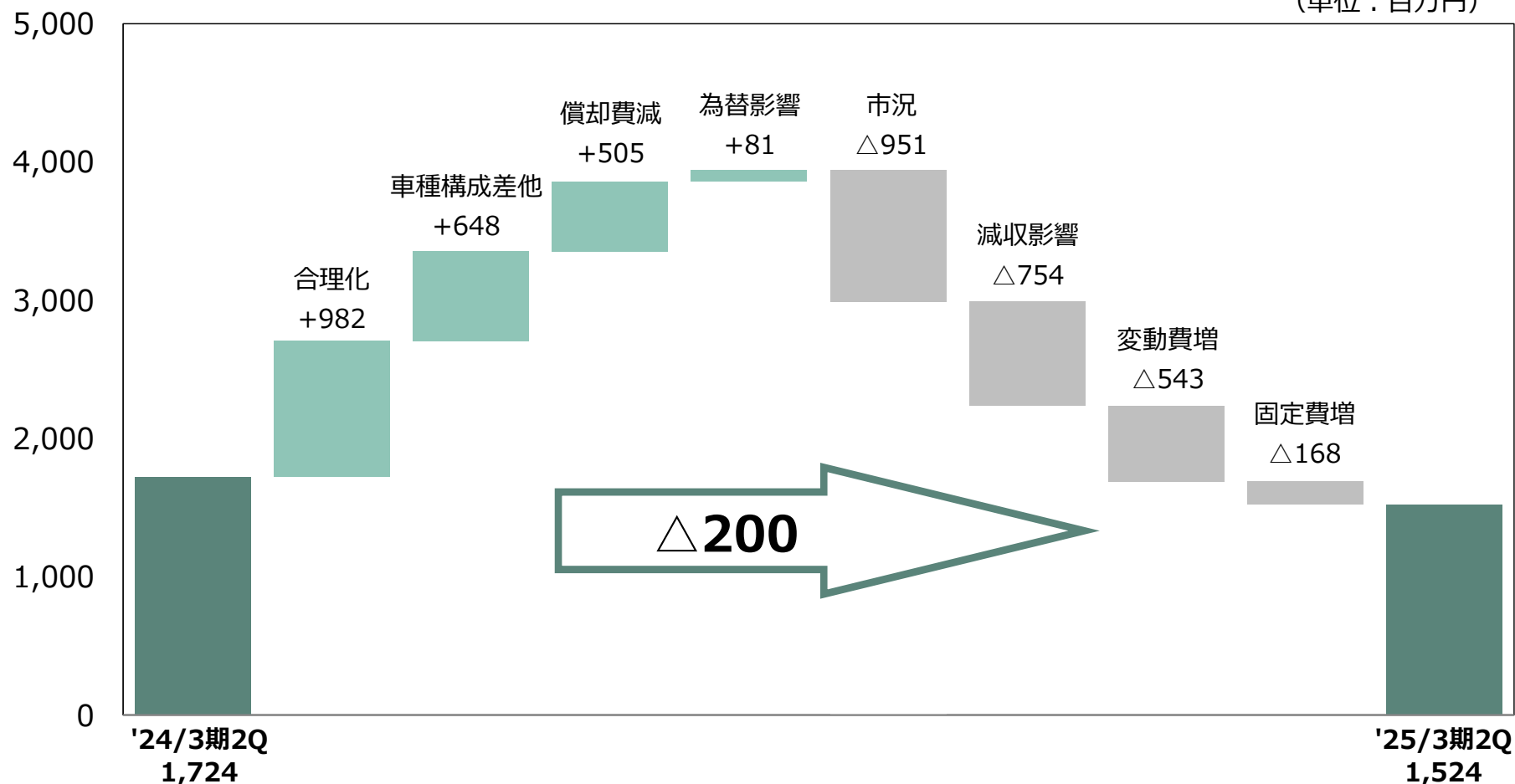
為替影響等により日産、本田は増加  
新規得意先の増加はあるものの、自転車用エアバッグ減少影響等によりその他は前年同期並み



# (5) 営業利益増減説明



(単位：百万円)



※償却費は為替影響(△203)を除く金額となっています。

市況、減収影響、変動費増加、固定費増加等の悪化要因を、合理化、車種構成差等で打ち返すことができず減益

# (6) B/S主要増減

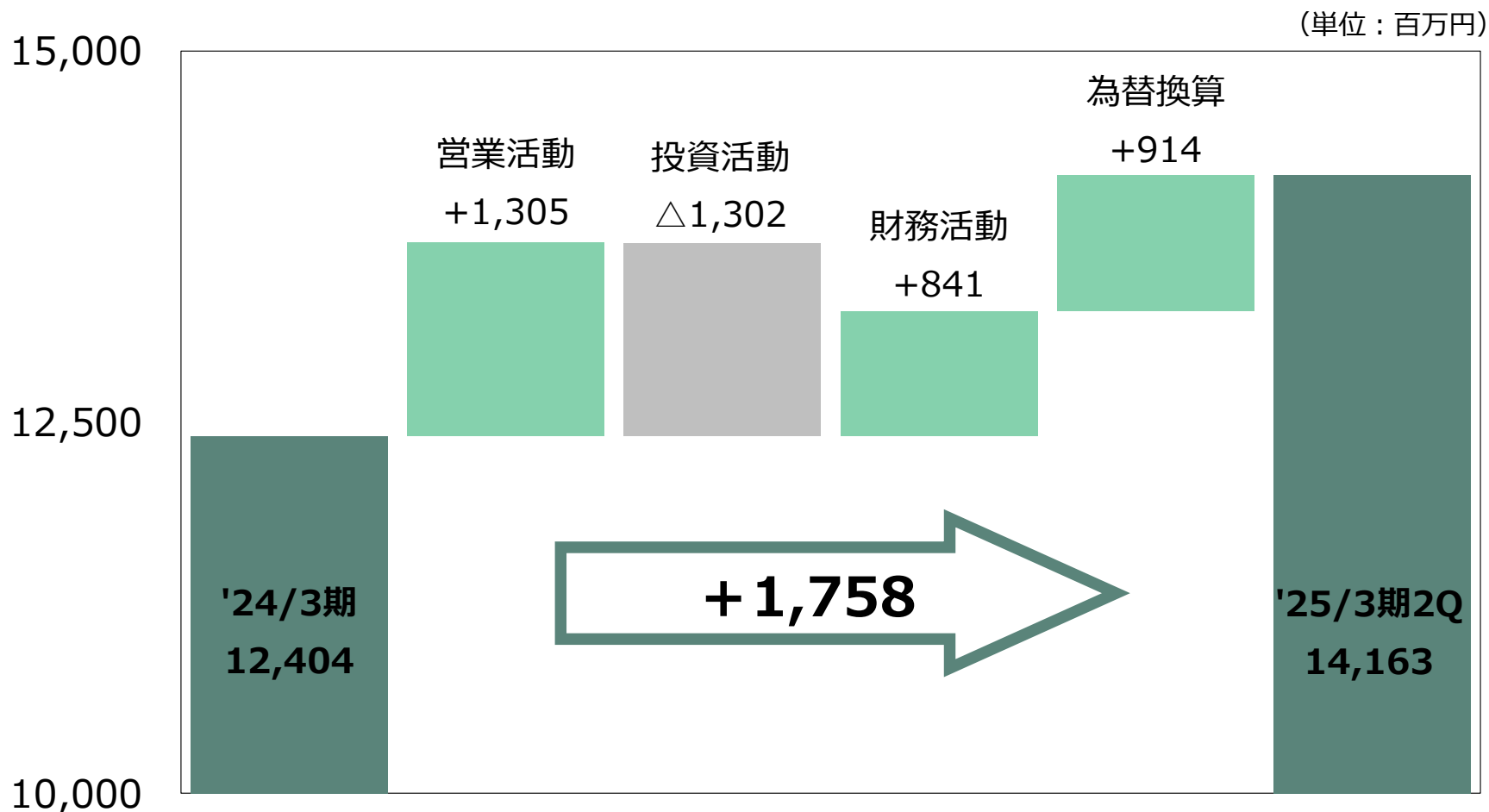


(単位：百万円)

	'24/3末	'24/9末	前年度末比	主要増減要因
流動資産	46,346	48,688	2,341	・現金及び預金 +1,758 ・原材料及び貯蔵品 +303
固定資産	35,587	38,205	2,618	・有形固定資産 +1,755
資産合計	81,934	86,893	4,959	

	'24/3末	'24/9末	前年度末比	主要増減要因
流動負債	38,895	40,872	1,977	・短期借入金 +4,246 ・支払手形及び買掛金 △ 1,284 ・賞与引当金 △ 916
固定負債	11,981	11,144	△ 836	・長期借入金 △ 1,082 ・繰延税金負債 +328
純資産	31,057	34,877	3,819	・為替換算調整勘定 +3,248 ・利益剰余金 +655
自己資本比率	37.9%	40.1%	2.2 %	
負債純資産合計	81,934	86,893	4,959	

# (7) C/F増減



1. 2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算報告

2. 2025年3月期 通期見通し

3. トピックス



日本プラスト株式会社

# (1) 概要



(単位：百万円)

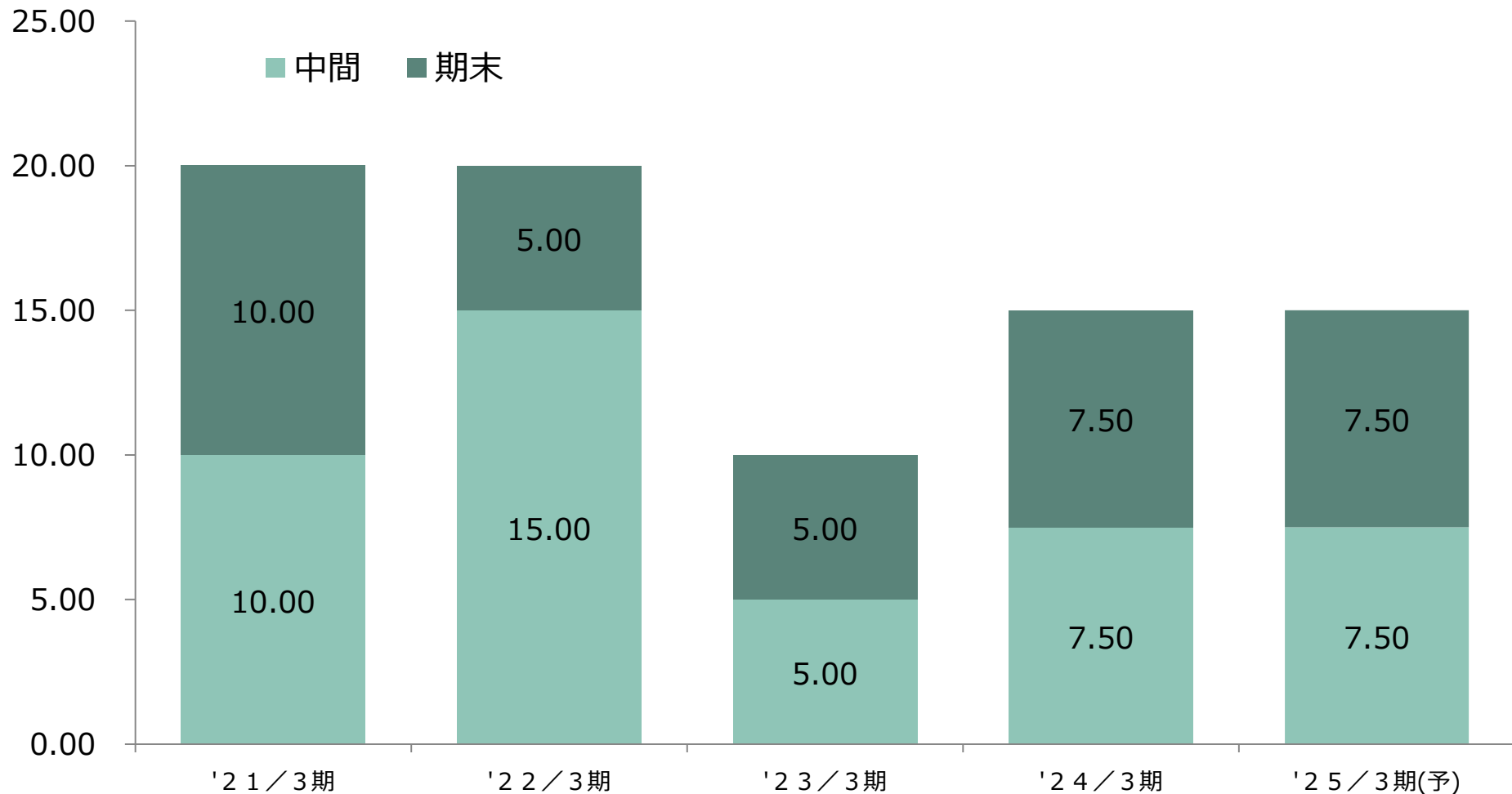
	2024年3月期		2025年3月期		増減	伸率
売上高	124,255	100.0%	122,000	100.0%	△ 2,255	△ 1.8 %
営業利益	2,811	2.3%	2,000	1.6%	△ 811	△ 28.9 %
経常利益	2,920	2.4%	1,400	1.1%	△ 1,520	△ 52.1 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,478	2.0%	900	0.7%	△ 1,578	△ 63.7 %
1株当たり当期純利益	129.75円		47.53円		—	—
1株当たり配当金	15.00円		15.00円		—	—
設備投資額	2,710		5,000		2,290	84.5 %
減価償却費	5,504		4,803		△ 701	△ 12.7 %
US \$ 換算レート	141.20円		145.00円		3.80	—

# (2) 配当金



(単位：円)

## <配当金推移>



質問	回答
①通期見通しを修正しない理由。(順調に進捗しているように見えるが、上方修正はしないのか)	下期は北米・中国を中心に得意先の生産台数が落ち込む見通し。また、上期からずれ込んだ新車開発費及び諸経費の発生、取引先からの価格改定(値上げ)要請に応じた仕入価格の高騰等が想定されることから、据え置きとしている。
②一過性の要因は含まれるのか。	特筆すべき一過性の要因は含まれていない。
③前年同期に比べ日本のセグメント利益率が上昇している要因。	2Qで当期の原材料価格・電力料の高騰、賃金上昇影響等の販売価格転嫁が一部進展したため。期初に遡り販売価格を上げる調整もあり。ただし、①の質問の回答の通り、下期は取引先からの価格改定要請に応じた仕入価格の高騰等を受け、利益率は下がる見通し。
④前年同期に比べ北米のセグメント利益率が低下している要因。	前年同期は販売価格転嫁が進展し、得意先より過年度分の価格高騰影響の遡及支払を受ける等、一過性の要因が利益を押し上げていたため。また、当期は賃金上昇を受けた労務費の増加が利益を圧迫していることも要因のひとつとなっている。
⑤販売価格転嫁の進捗について。	上記に記載の通り、日本で進展あり。日本において賃金上昇影響の転嫁が認められたことは大きな進展。一方、取引先からの要請にも誠実に対応し、全方位での共存共栄の実現を目指す。
⑥株価が低迷していることをどうとらえているのか。	具体的な施策をもって将来性を示せていないこと、赤字ではないものの満足できる収益ではないことが大きいと思っている。引き続き既存顧客への拡販、新規顧客の獲得、新規事業創出等に力を入れることに加え、IR活動を積極的に行っていく。また、株主還元の強化についても検討を進める。

1. 2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算報告

2. 2025年3月期 通期見通し

3. トピックス



日本プラスト株式会社



# トピックス\_新規受注活動



日産 2025 KICKS 2024年8月13日 米国販売



## 5部品採用 内、3部品新規採用

【当社が受注している部品】

安全部品（2部品）

- ・ハンドル
- ・運転席用エアバッグ

新規採用

エクステリア部品（3部品）

- ・カバーカウルトップ
- ・グリル RAD アッパー
- ・ブラケットAssyエプロン

# トピックス\_産学・官民一体の取り組みの紹介



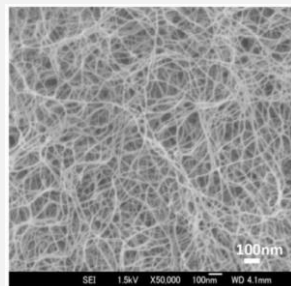
日本プラストは、自治体や学术界との協業を通じて、新たな知識や技術の創出を目指し、それを産業や社会の課題解決に活かしています。最先端の研究成果を取り入れることで、製品やサービスを革新し、競争力を強化することを重視しています。

## 自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械的物性向上及び成形性の安定化

共同研究相手先：静岡県工業技術研究所

富士工業技術支援センター内の、ふじのくにCNF（セルロースナノファイバー）研究開発センターCNFラボ（共同研究室）に入居しています。

富士工業技術支援センター、静岡大学、当社の3者が連携し、当社の研究課題「自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械的物性向上と成形時の変色及び臭気強度の低減」に取り組んでいます。



セルロースナノファイバー

## 微生物を利用した熱硬化性ポリウレタンの分解方法等

共同研究相手先：帯広畜産大学

微生物を用いてウレタンを分解する方法及びウレタンの分解等のテーマについて、産学連携での研究、開発を行っています。研究テーマの一部については特許を取得し、ステアリングホイールに使われるポリウレタンの廃材を土の代替にアップサイクルしたインテリアグリーン等、特許技術を用いた商品の販売を行っています。



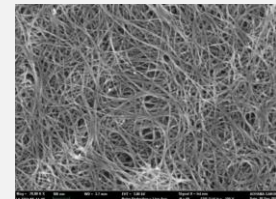
共同で  
特許出願済

## 導電膜積層体の製造方法及び導電膜積層体

共同研究相手先：青山学院大学

SWCNTインク;Single-Wall Carbon Nanotubeを電極材料とした高導電性膜の転写手法の共同研究を進めています。

SWCNT膜は、優れた機械的、電気的、熱的安定性を持つことに加えて、高いフレキシブル性を有することから、次世代の高機能な導電材料として応用が期待されています。



SWCNTランダムネットワーク  
(青山学院大学 黄研究室提供)

共同で  
特許出願済

# トピックス\_SDGsへの貢献

各活動の詳細、最新の情報は、  
当社ホームページをご覧ください。  
<https://www.n-plast.co.jp/>



## 持続可能な社会に貢献すべく、活動を実施しました

- ・第3回 田子の浦海岸清掃活動実施
- ・第5回「はぐくみの森」夏の探検隊を実施
- ・「富士まつり」に協賛
- ・アメリカ拠点 サイクリングチーム・大会に協賛
- ・アメリカ拠点 従業員交流イベント実施



▲田子の浦海岸清掃活動のようす



- ・アメリカ拠点 カンパニーピクニックを実施
- ・わかふじスポーツ大会に協賛
- ・富士宮市 健康マイレージ事業に景品提供
- ・小学校での出張講座を実施



▲従業員交流イベントのようす▼



▲健康マイレージ事業に提供した景品



▲カンパニーピクニックのようす



▲出張講座のようす▼



▲夏の探検隊のようす



▲サイクリング大会のようす



▲従業員交流イベントのようす

2024年 7月

8月

9月

- ・高校生の企業見学会を実施
- ・「柿田川 自然観察会」に参加
- ・アメリカ拠点 ゴルフ大会に協賛
- ・アメリカ拠点 ウォーキングタコスランチを実施
- ・ふじのくに福産品等 SDGsパートナーに認定
- ・タイ拠点 上毛町の小学生の工場見学を受け入れ



▲従業員交流イベントのようす

## 日本プラストサステナビリティレポート2024を掲載しました



NIHON PLAST SUSTAINABILITY REPORT 2024  
日本プラスト サステナビリティレポート2024



日本プラスト サステナビリティレポート2024 (当社ホームページ)

[https://www.n-plast.co.jp/wp-content/uploads/csr/NP\\_SustainabilityReport\\_2024.pdf](https://www.n-plast.co.jp/wp-content/uploads/csr/NP_SustainabilityReport_2024.pdf)



▲企業見学のようす



▲柿田川自然観察会のようす



▲ゴルフ大会に参加した方々

# ご視聴ありがとうございました。

◆決算説明に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

お問い合わせフォーム：<https://forms.gle/jKFZLepqrEeUVRyb6>  
(受付期限：2024年12月27日)



◆今後の運営の参考にさせていただきますので、よろしければアンケートにご協力ください。

※アンケートにご回答いただいた方、先着50名に粗品をプレゼントいたします。

アンケート入力画面：<https://forms.gle/s1Cw8mLPyTYrXPRNA>  
(回答期限：2024年12月27日)



本資料に記載の将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。



日本プラスト株式会社

